



校門前で下校する児童に交通安全などの注意を呼び掛ける民生委員

子どもたちを交通事故、犯罪から守る

子どもたちの健やかな成長を地域全体で見守ろうと車力民生委員児童委員協議会(成田徳一会長)が10月28日、車力駐在所と連携して防犯パトロールを開始しました。

車力支所で行われた出発式では、成田会長が「地域のおじさん、おばさんもみんなを見守っているという安心感を子どもたちに伝えましょう」とあいさつ。

出発式終了後、委員らは3小学校の通学路に分散し「車に気をつけて帰ってね」「知らない人にはついて行ってはダメですよ」と下校する児童に注意を呼び掛けていました。

同協議会が実施するパトロールは、富苑小、車力小、牛湯小の低学年児童が下校する時間帯に合わせて行われ、無理なく続けられるようにと毎月1回の同協議会定例会後に行うことになっています。

お互いを理解し合う 男女共同の機会を

すべての人の個性を尊重し、お互いを理解し思いやる環境をつくろうとつがる市男女共同参画推進委員会(工藤早苗委員長)が10月29日、男女共同参画セミナーを松の館で行いました。

セミナーには市民ら60人が参加し「人間(ひと)を尊重し思いやりと優しさにあふれるまち」と題して、(株)青森テレビ報道制作局放送部長の川口浩一氏が講演。川口さんは「日本は米国に比べ家事、育児、介護をする男性が少ない。企業などは育児休暇を気兼ねなく取れる環境づくりが求められる。少子高齢化を打破するためには、男女共同参画社会をすすめることです」と話しました。

また、参加者たちはジェンダー(※1)チェックを行い、家族や毎日の生活に何気なく組み込まれている男女のあり方について見つめ直していました。



男女共同参画社会の在り方について講演する講師の川口さん

※1 ジェンダーとは、生物学的な性差ではなく、社会的、文化的に規定された「女らしさ」「男らしさ」のこと

魅力ある地域づくりを進める 交流懇談会

地方分権社会での地域の自立を考えようと「地域づくり交流懇談会inつがる」が11月7日、(財)青森県市町村振興協会と青森県地域づくりネットワーク推進協議会が主催し、柏ふるさと交流センターで開催されました。

交流懇談会には市民ら150人が出席し、県内各地で活動する特定非営利活動法人(NPO法人)や住民団体の代表3人が「あおもりをなんとかしたい私たち」と題してトークセッションを行いました。つがる市からはNPO法人つがる夢庭志仙会の荒谷政志理事長がパネリストとして発表。荒谷さんは「ふるさとの良さは離れてみて気づくものです。民間と行政が一体となってネットワークを結び、津軽の景観を首都圏に発信したい」と将来像を披露しました。

また、トークセッション終了後には、つがる市産の食材を使った料理が紹介され、参加者たちは料理を味わいながら意見交換をしました。



ふるさとの良さを首都圏に発信するための将来像を語る荒谷さん

降ひょう被害リンゴを応援!

柏中学校(永澤正己校長)の2年生51人が10月29日、自分たちが収穫したリンゴを県物産協会のアンテナショップあおもり北彩館東京支店(東京都千代田区)で販売しました。

同校は10月28日から31日まで予定された修学旅行の日程に販売体験を組み入れ、販売に先立ち24日に柏地区のリンゴ園地でサン北斗と王林を収穫し、3個入り420袋を準備。

生徒たちは、9月の降ひょう被害に見舞われた同地区の農家を元気づけたいとの願いを含め「青森県つがる産のリンゴはいかがですか」と元気な声で呼び掛けながら販売していました。1袋300円のリンゴは、3時間ほどで完売する盛況ぶりで、生徒たちも喜んでいました。



リンゴを買ってくれたお客さんに「ありがとうございます」と声を掛ける柏中の生徒たち

味はお墨付き!おいしい リンゴはいかが

柏小学校(坂本徹校長)の4年生62人が11月4日、農業ふれあい体験教室の一環としてリンゴの販売体験をイオンモールつがる柏で行いました。

販売用に準備したリンゴは春から管理を行い、袋かけ、葉取りなどの作業を体験し、10月下旬に収穫した「ふじ」22箱。1袋3個入り200円で販売された袋の中には「買ってくれてありがとうございます。とてもおいしいリンゴです」と児童手書きのメッセージが添えられていました。

児童たちは「とってもおいしいリンゴはいかがですか」などと元気な声で買い物客に呼び掛け、試食してもらいながら完売を目指していました。



緊張しながら初めての販売体験をする柏小の児童たち



祝いに駆けつけた家族に囲まれて笑顔を見せる永田さん

祝100歳おめでとう 永田そよさん

桑寿園に入所している永田そよさん(木造千代町)が11月20日、めでたく100歳の誕生日を迎えました。

そよさんは1908(明治41)年に旧木造町に生まれ、死別した夫の義雄さんとの間に6人の子供を授かり、孫14人、ひ孫16人、玄孫2人に恵まれました。若い時から人のために尽くすことが好きだったそよさんは、長年にわたって民生委員や老人クラブ会長を務め、地域のために貢献してきました。

そよさんの長生きの秘訣は歩くことで、95歳頃までは旧木造町と旧森田村間を元気に歩き、また、好きな食べ物とはろろ昆布と納豆だそうです。

長寿を祝い同園を訪れた成田福祉部長からは顕彰状と記念品が贈呈され、埼玉県から駆けつけた5女の水口笑子さんが、そよさんに代わってお礼の言葉を述べていました。



ハロウィンの装飾「かぼちゃランタン」づくり

世界的に開催されているハロウィンのお祭りにちなんで10月29日、松の館でハロウィンかぼちゃづくり教室が行われました。講師の市国際交流員ベルテ・デーナの指導のもと参加者は、オレンジ色のかぼちゃにマジックで目、鼻、口の下書きをし、ナイフを使って切り抜き、かぼちゃの上部に穴を開けて、スプーンで丁寧に種をかき出していました。最後にろうそくをかぼちゃの中に入れ、みんなで出来栄を比べながら世界に1つだけのオリジナルランタンを完成させました。

交通事故防止に役立てて つがる地区交通安全協会

生徒を交通事故から守ろうとつがる地区交通安全協会（桜庭修会長）が10月29日、木造中学校にウィンドブレーカーに反射材が付いた「セーフティジャケット」50着を寄贈しました。

同校の敷地内では、来年4月に統合、開校する新木造中学校の新築工事が行われおり、屋外競技の運動部員らは道路をランニングしています。桜庭会長と成田弘志交通指導隊長は「ジャケットを着用して交通事故防止に役立ててください」と三浦校長、葛西教育長に手渡しました。



お仕事がんばって

木造西幼稚園

木造西幼稚園の園児ら39人が11月5日、勤労感謝の日（11月23日）を前に市役所を訪れ、職員らに感謝の言葉を述べました。園児たちは「毎日のお仕事ご苦労様です。ぼくたち・わたしたちも頑張りますのでみなさんも頑張ってください」と大きな声であいさつし、成田収入役らに手作りカレンダー、鉢花、お菓子や歌をプレゼントしました。

成田収入役は「上手な歌をありがとう。皆さんからいただいた花を見ながら仕事を頑張るので、みんなも先生の言うことを良く聞いて、いっぱい遊んで元気な子どもになってくださいね」とお礼の言葉を述べました。



身体障害者の自立と社会参加を誓う

西北郡並びにつがる市在住の身体障害者が一堂に会し、会員ら160人が参加して「第44回西北つがる地区身体障害者社会参加促進大会並びに家族の集い」が11月6日、牛潟公民館で行われました。

式典では、小笠原勝秋つがる市身体障害者福祉連合会長が福祉向上に貢献した9人へ表彰状を手渡し、式典後には、会員や家族らによるカラオケや踊りが披露されました。久々に顔を合わせた会員たちは、交流を深め自立更生の意欲を確かめ合い、社会参加の意識を高めていました。



体育協会長杯争奪ボウリング大会

第4回つがる市体育協会長杯争奪ボウリング大会が11月8日、市民ら54人が参加してイズミボウリングセンターで行われました。

この大会は、3ゲームのトータルで順位を決定しますが男女別にハンディキャップが与えられ、順位に関係なく豪華景品がもらえるとあって市民には人気の大会となっています。

今大会で見事優勝したのは七戸環さん（森田町）で、トータル706という成績で優勝。七戸さんはトロフィーを抱えながら「来年も参加して優勝を目指します」と勝利のコメントを話していました。



10周年記念コンサート

音”(おど)の会

稲垣地区で音楽活動をしている音”(おど)の会による「長内繁雄とゆかいな仲間たち」の10周年記念コンサートが11月9日、稲垣交流センターで行われました。

コンサートには市内外のファンたち150人が訪れ、メンバーたちはファンのお陰で10周年を迎えられたことに感謝の思いを込め、カバー曲やオリジナル曲など全20曲を披露。また、特別ゲストとして「サエラ」を招いてのジョイントコンサートも行われ、訪れた観衆を魅了していました。



本年産「アイガモ米」を初出荷

JA木造町

木造町農協の「おいしいごはん作る会」(浜山敏彦会長)が作付けた無農薬・無化学肥料のアイガモ米(つがるロマン)が11月10日、同農協のカントリー施設前から初出荷されました。

出荷を祝うセレモニーでは生産者や関係者約20人が出席。テーブルカットをした後、アイガモ米75*が関東方面の消費者に向けて発送されました。浜山会長は「今年も収穫時期が天候に恵まれて、おいしい米が出来ました。自信を持って消費者に届けられます」と喜びの言葉を話していました。



米粉でうんぺい作りに挑戦

市のブランド農産物のひとつであるコメを使った料理講座が11月11日、松の館で行われ、米粉を使ったうんぺい作りを学ぼうと市民ら30人が参加しました。

講座はつがる市食育応援隊(原田ひとみ会長)が主催し、すみれ生活改善グループ(山谷麗子代表)の会員たちが指導しました。

参加者たちはミカンの皮、モモギ粉などで色付けし、「菊模様」と「め巻き模様」などのうんぺい3種類を完成させていました。参加者のほとんどが初めての挑戦で「何枚も重ねて丸めるのが難しかった」「うんぺいを切るのにもコツがあるんだね」と感想を話していました。



103人が修了「長寿大学閉講式」

平成20年度つがる市長寿大学閉講式が11月14日、学生103人が出席して松の館で行われました。

閉講式では、葛西学長から各地区の代表者に修了証書が授与され、学生を代表して小山内兼一運営委員長が「今年度の学習も無事に終わることが出来て、皆さんに感謝しています。来年度も学習意欲を高め積極的に受講しましょう」と話していました。

閉講式終了後は、学生たちによるアトラクションが行われ、カラオケやダンスを踊って交流を深めていました。



雪印乳業がV7 朝野球大会閉会式

第44回つがる支部朝野球選手権大会の閉会式が11月14日、選手や関係者ら80人が参加して松の館で行われました。

今シーズンはメジャーリーグ10チーム、マイナーリーグ6チームが出場し、メジャーリーグは「雪印乳業」が優勝、マイナーリーグは「JA木造町」が優勝しました。

また、MVPには小枝泰隆選手(雪印乳業)が選ばれ、選手たちは今シーズンの健闘をたたえ合い、5ヶ月間の熱戦を振り返りながら懇親を深めていました。

